平成 28 年　1月　20日

研修報告書

氏名：北村裕梨

所属：東京女子医科大学附属遺伝子医療センター

研修期間：平成27年7月27日　～　平成27年7月31日

研修場所：信州大学医学部附属病院遺伝子診療部

研修内容：

27日（月）午前：ミニ症例検討会、

午後：ID（知的障害児原因検索・遺伝カウンセリング）専門外来

28日（火）午前午後：遺伝子診療部外来。夕方：遺伝子診療部カンファレンスに参加。

29日（水）午前午後：稲荷山医療福祉センターにて外来陪席、養護施設見学。

30日（木）午前：難聴遺伝診療外来。午後：遺伝子診療部外来。

31日（金）午前：難聴遺伝診療外来。午後：遺伝子診療部外来。

研修成果：

5日間という限られた期間だったが、遺伝子診療の先駆けである信州大学において、幅広い領域にわたる遺伝カウンセリングを集中して経験することができ、遺伝領域における他施設での診療体制、臨床遺伝専門医の役割、認定遺伝カウンセラーとのスムーズな連携の仕方等、非常に多くのことを吸収することができた。特に、自施設ではほとんど経験のなかった先天性結合組織患者の診療や知的障害児外来、難聴遺伝子診療外来などの信州大学ならではの遺伝カウンセリングも多く経験することができたのは学ぶことも多く大変有意義であった。また、出生前診断の遺伝カウンセリングを計3症例経験する中で、認定遺伝カウンセラー、臨床遺伝専門医それぞれが個々で十分な時間をかけて情報提供を行う過程で、クライエントの気持ちの変化が伺え、安心・納得した表情で診察室を後にするシーンを何度も経験し、遺伝カウンセリングの手法、その重要性を再認識した。さらに、研修期間中のほとんどを臨床遺伝専門医と行動を共にしたことで、多忙な日常診療の現場を体感したとともに、極多忙な臨床の傍ら、研究にも勤しむ姿に感銘を受け、今後自分が一臨床遺伝専門医として診療していくうえで大いに刺激となり、今回の研修は非常に有意義な研修となった。